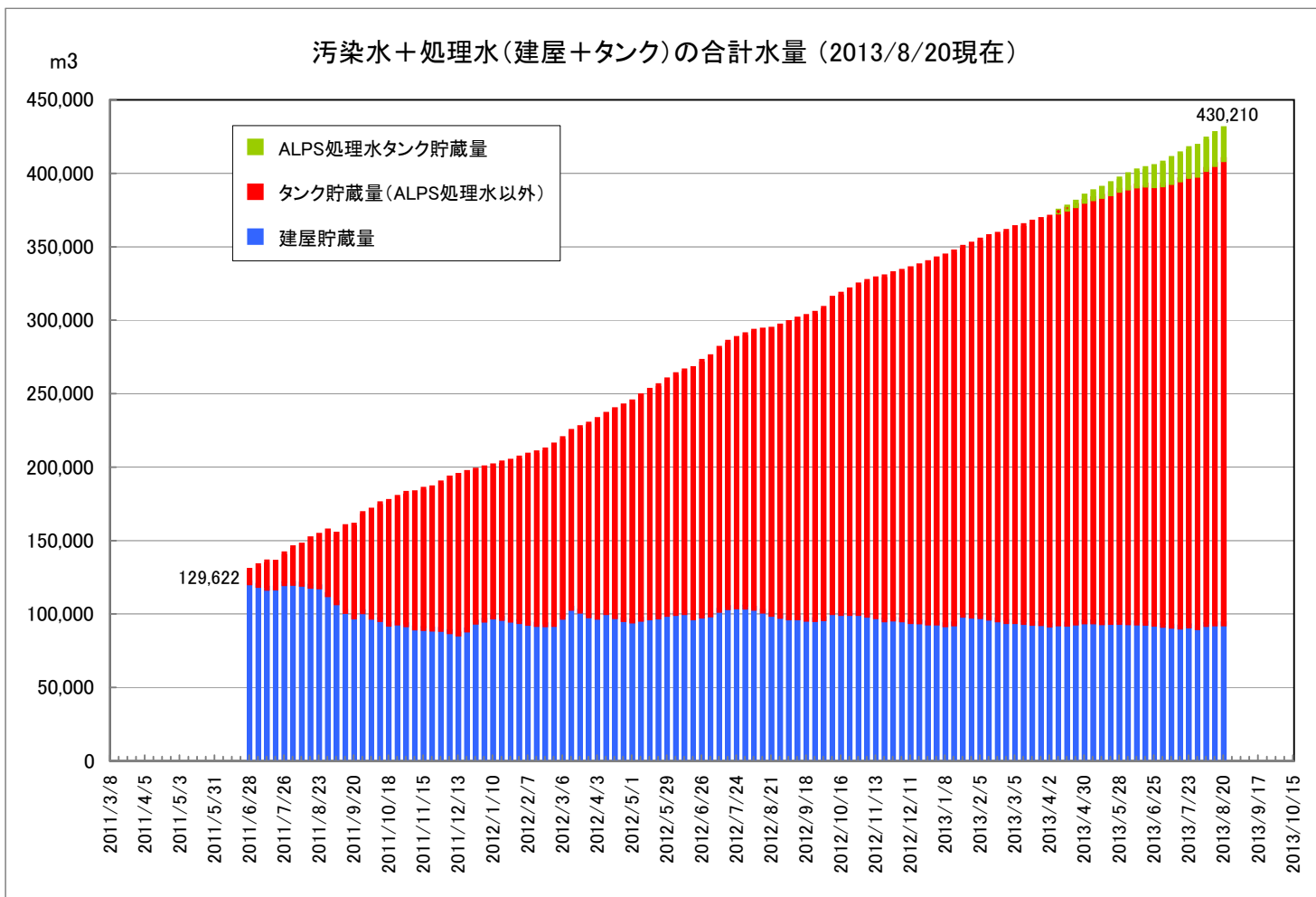


注: 毎週火曜時点の数値が、水曜日に公表される。

- 2013/1/8 地下貯水槽No.3 10,500m³ を、濃縮塩水タンクに割当て。
 - 2013/2/1 地下貯水槽No.2 13,200m³ を、濃縮塩水タンクに割当て。
 - 2013/4/5 地下貯水槽No.2 からの水漏れを発見。(4/6 No.1とNo.6に移送開始)
 - 2013/4/6 地下貯水槽No.3 からの水漏れを発見。
 - 2013/4/9 地下貯水槽No.1 からの水漏れを発見。
 - 2013/4/9 地下貯水槽No.1, No.6の80%を濃縮塩水タンクに割当て、No.2, No.3の容量を80%に変更。
 - 2013/4/9 地下貯水槽No.1, No.5, No.6, No.7をALPS処理水タンクから除外。
 - 2013/4/16~22 地下貯水槽No.2 から、「濃縮廃液貯槽(H2)」へ移送(約1,070m³)。
 - 2013/4/23 地下貯水槽No.2 13,200m³ を、濃縮塩水タンクから除外。
 - 2013/4/23~26 地下貯水槽No.1 から、「濃縮廃液貯槽(H2)」へ移送(約680m³)。
 - 2013/4/25~29 地下貯水槽No.1 から、「ろ過水タンク」へ移送(約4,600m³)。
 - 2013/4/29~5/6 地下貯水槽No.1 から、「濃縮廃液貯槽(H2)」へ移送(約1,570m³)。
 - 2013/5/7 地下貯水槽No.1 12,600m³? を、濃縮塩水タンクから除外。
 - 2013/5/7 ろ過水タンク 4,800m³ を、濃縮塩水タンクに割当て。(注: 容量8,000m³を、60%容量制限)
 - 2013/5/18~6/3 地下貯水槽No.3 から、G6タンクへ移送(約8,200m³)。
 - 2013/6/3~6/6 地下貯水槽No.3 から、地下貯水槽No.6へ残水を移送(約200m³)。
 - 2013/5/21~6/9 地下貯水槽No.6 から、G6タンクへ移送(約7,900m³)。
 - 2013/6/11 地下貯水槽No.3 8,800m³? (水位上限80%)と、地下貯水槽No.6 8,000m³? (水位上限80%)を濃縮塩水タンクから除外。
 - 2013/6/11 G6タンク(? m³)を、濃縮塩水タンクに割当て。(6/5に漏洩が確認された G6-No.9は、貯蔵量と同じ140m³。)
 - 2013/6/25 ろ過水タンクの容量を 4,800→4,600m³に変更?
 - 2013/7/9 注水タンク(CST)運用開始(容量1,800m³、貯水量は公表されていないため、数字に含まれていない。)
 - 2013/8/9 地下水ピットからのくみ上げを開始(2号機立坑Cへ移送。)
 - 2013/8/15 ウェルポイントからのくみ上げを開始(2号機立坑Cへ移送。)
 - 2013/8/19 H4エリアタンクからRO汚染水漏れを発見(300m³以上/流出中)
 - 2013/8/20現在、濃縮塩水タンク容量には、ろ過水タンク(4,600m³)を含む。
- このほか、トレンチ内に汚染水が、約15,000m³存在する。

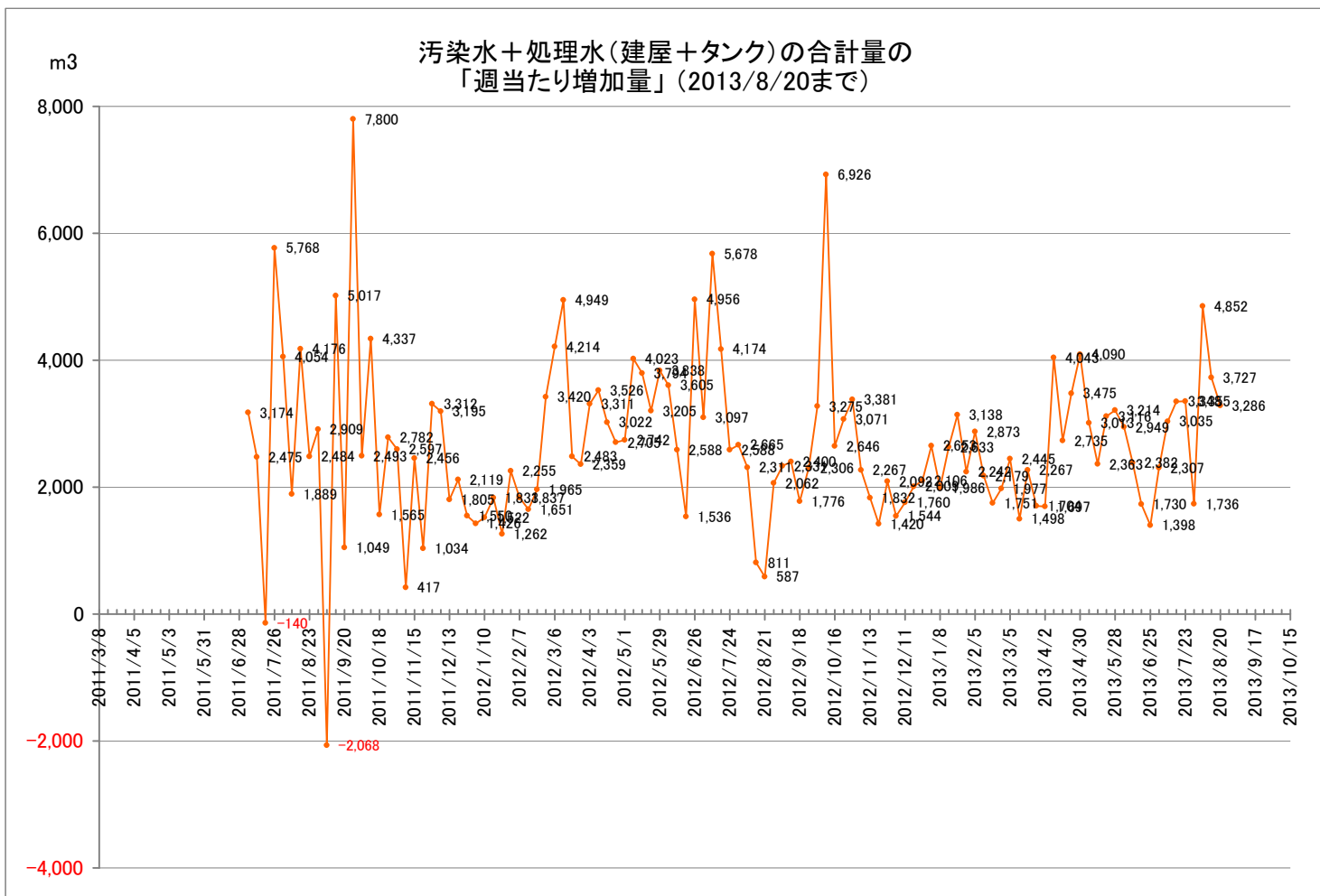
図2

汚染水+処理水(建屋+タンク)の合計水量(2013/8/20現在)



このほか、トレンチ内に汚染水が、約15,000m³存在する。

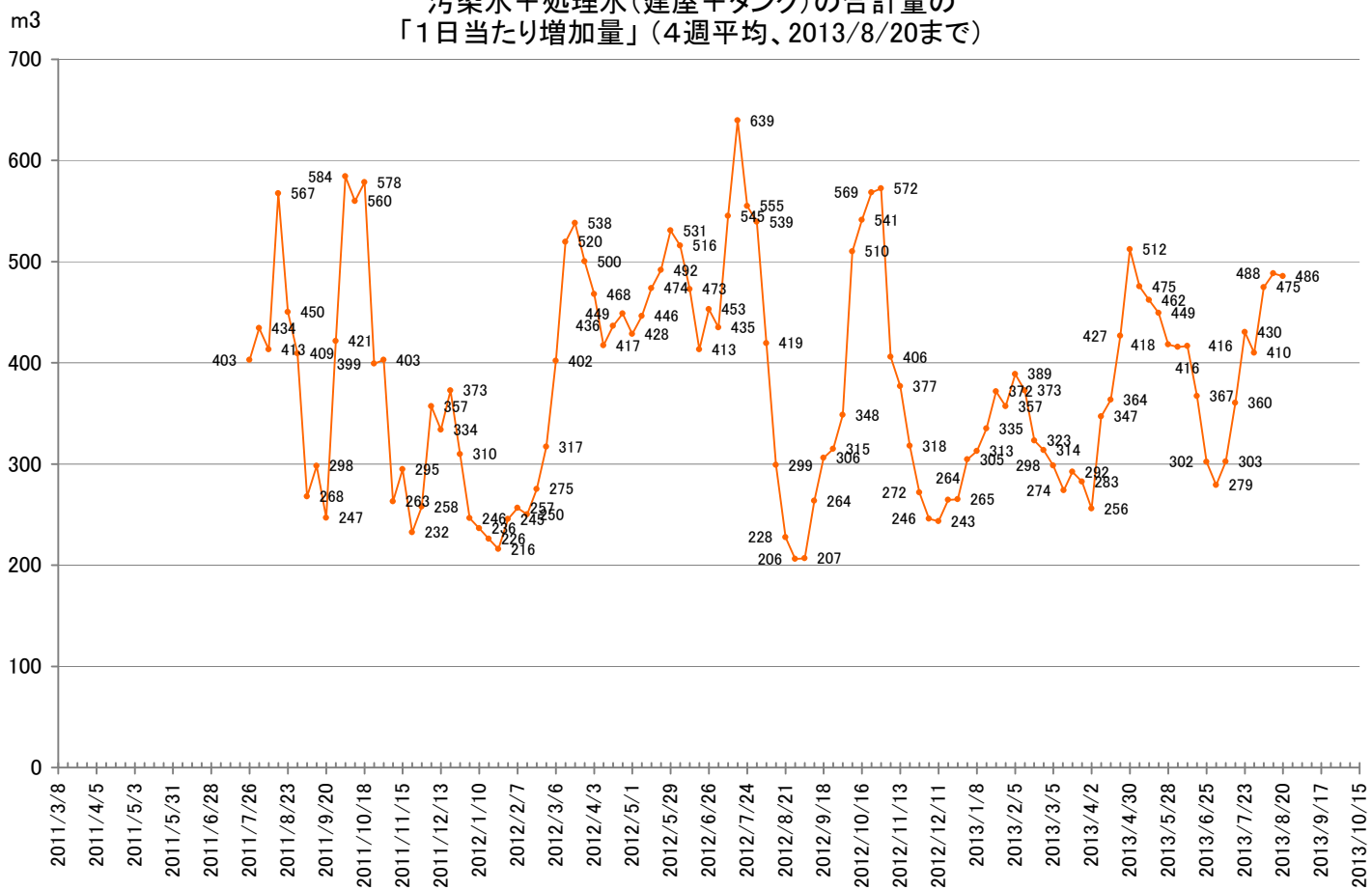
図3



増加量の大きすぎる(or 小さすぎる)週については、何らかの事情(評価法の変更など)があるのかもしれないが、今のところ理由は不明。

図4

汚染水+処理水(建屋+タンク)の合計量の
「1日当たり増加量」(4週平均、2013/8/20まで)



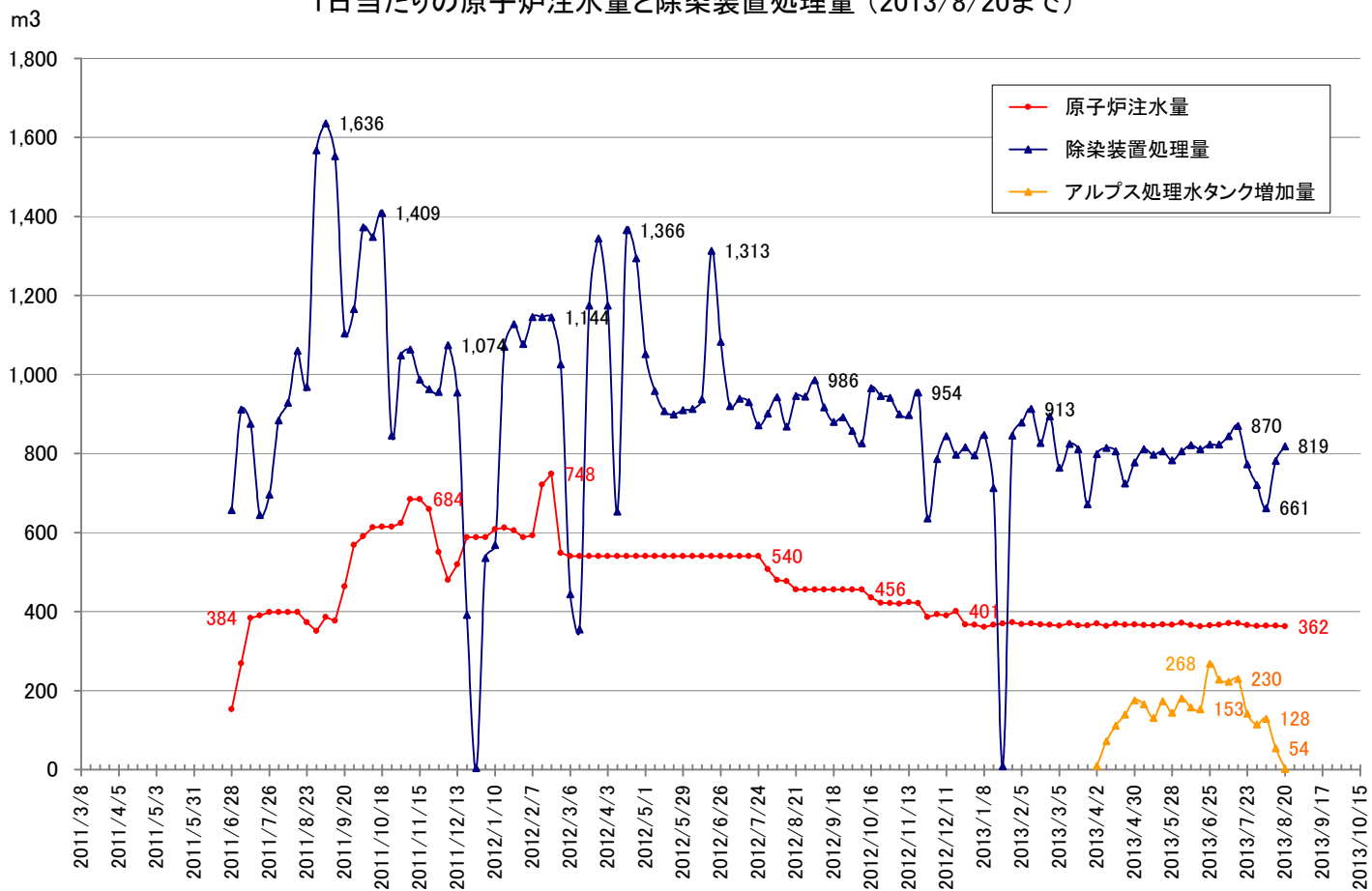
冬(11月~3月)は少ない → 春・梅雨時(4月~7月)は多い → 盛夏(8月)は少ない → 秋(9~10月)は多い

2013/8/9 地下水ピットからのくみ上げを開始(2号機立坑Cへ移送。)

2013/8/15 ウェルポイントからのくみ上げを開始(2号機立坑Cへ移送。)

図5

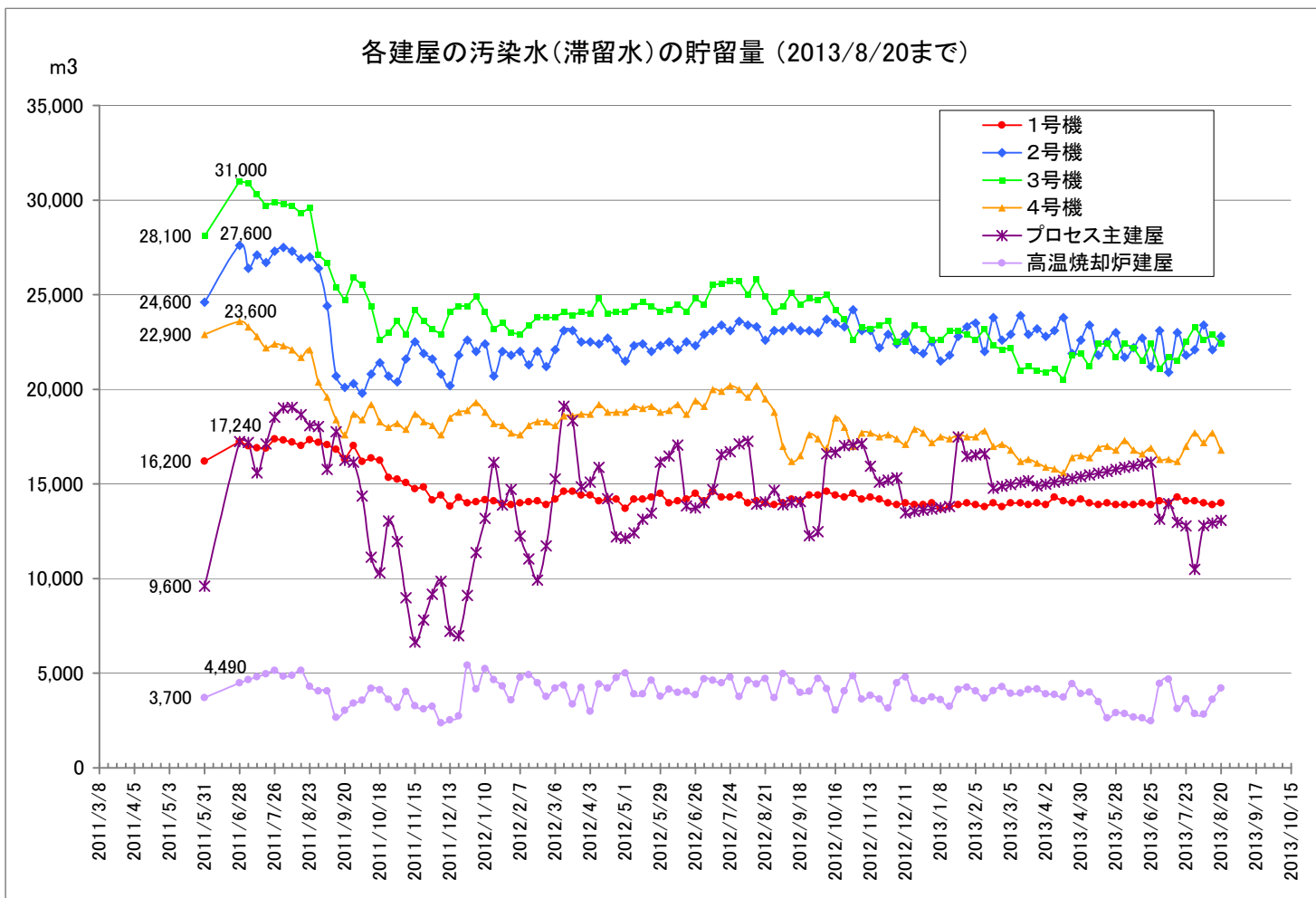
1日当たりの原子炉注水量と除染装置処理量（2013/8/20まで）



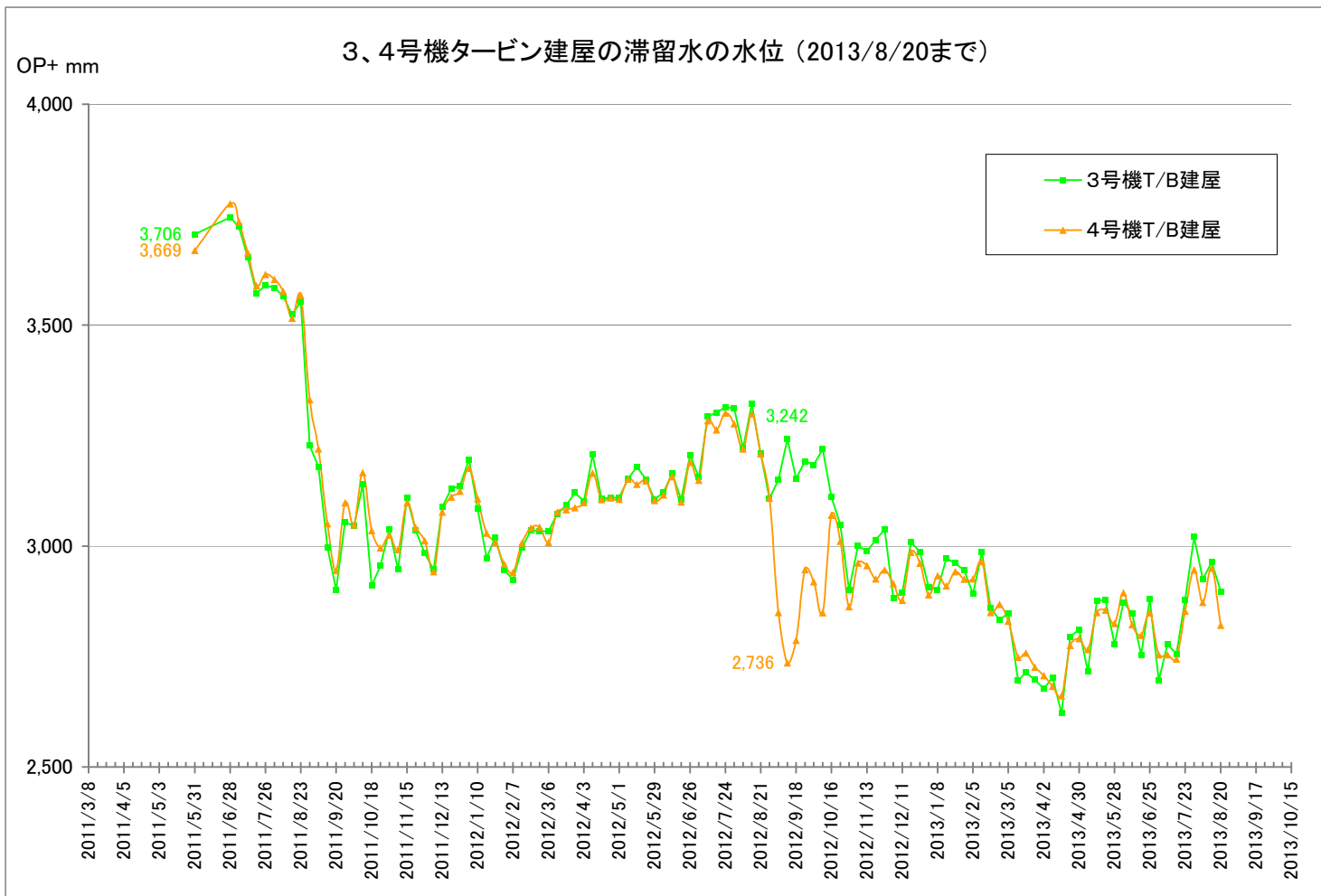
2013/3/30 ALPS(A系統)ホット試験開始 → 2013/6/16停止
 2013/6/13 ALPS(B系統)ホット試験開始 → 2013/8/8停止

図6

各建屋の汚染水(滞留水)の貯留量 (2013/8/20まで)

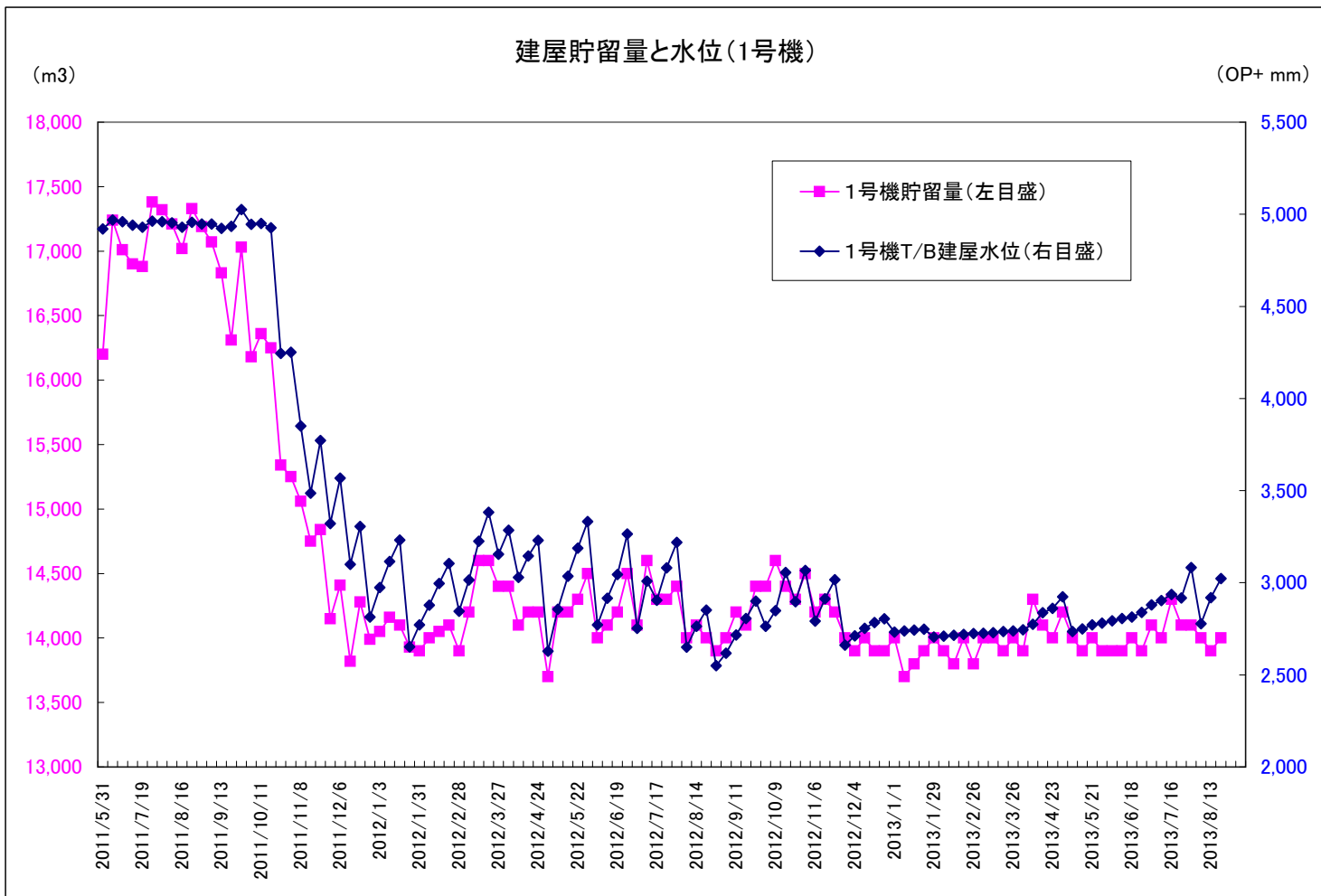


メモ: 復水器は1号機 1,600m³、2・3号機 3,000m³



3号機、4号機タービン建屋の水位はほとんど連動しているが、2012年の9～10月にかけては大きくずれている。

建屋貯留量と水位(1号機)



注: 1号機貯留量はT/B建屋水位と比例しない。これは、おそらくT/B建屋と原子炉建屋の、2つの水位を使って計算しているためだと思われる。

1号機のT/B建屋と原子炉建屋の水位はかなり違う。例→ http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts_130524_08-j.pdf

1号機の原子炉建屋の水位はたまにしか公表されないため、推移はよく判らない。

東電は2013/5/1に、1号機の滞留水貯留量の算出方法を、原子力規制庁に説明して(但し内容は公表されていない。)

図10

建屋貯留量と水位(2号機)

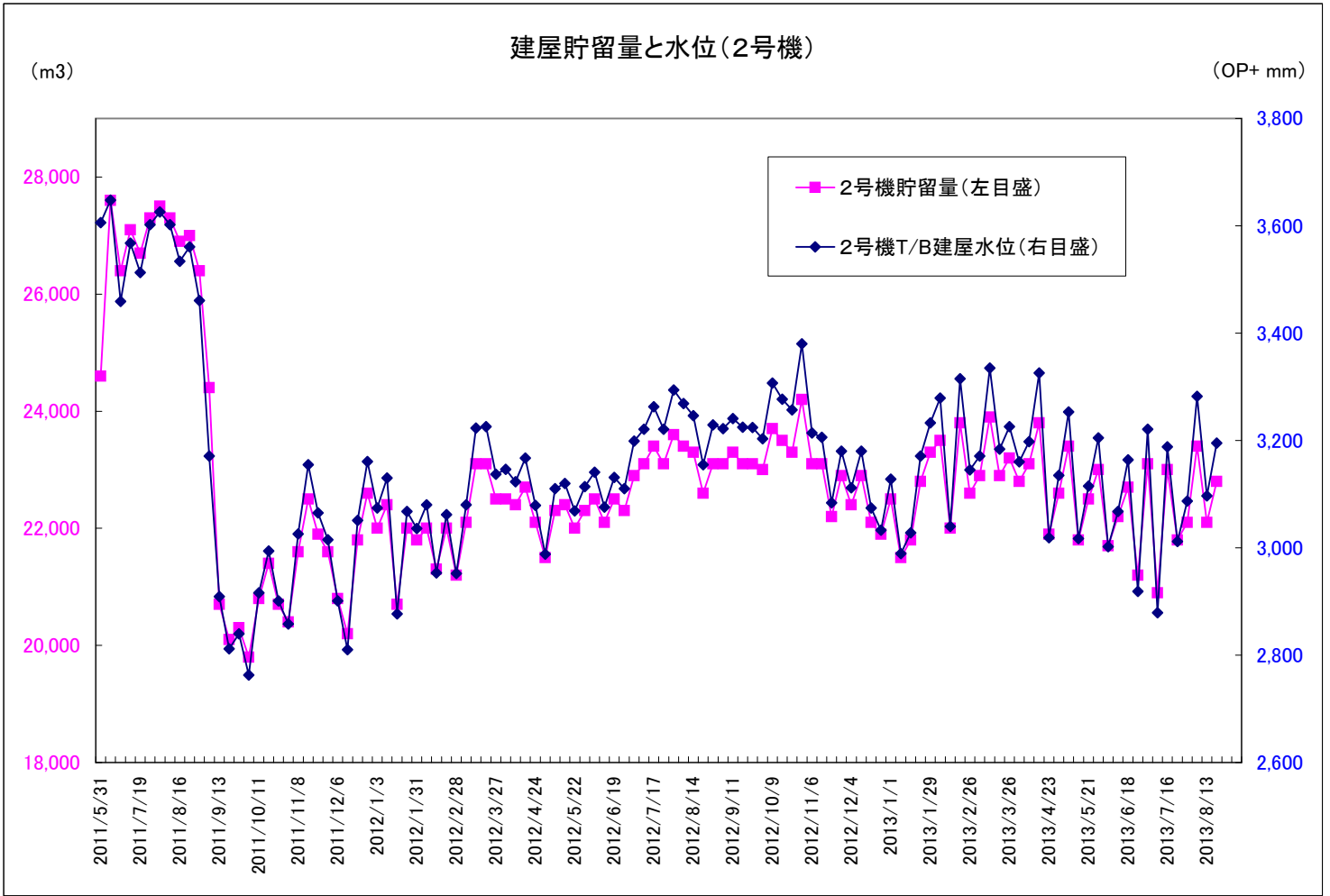


図11

建屋貯留量と水位(3号機)

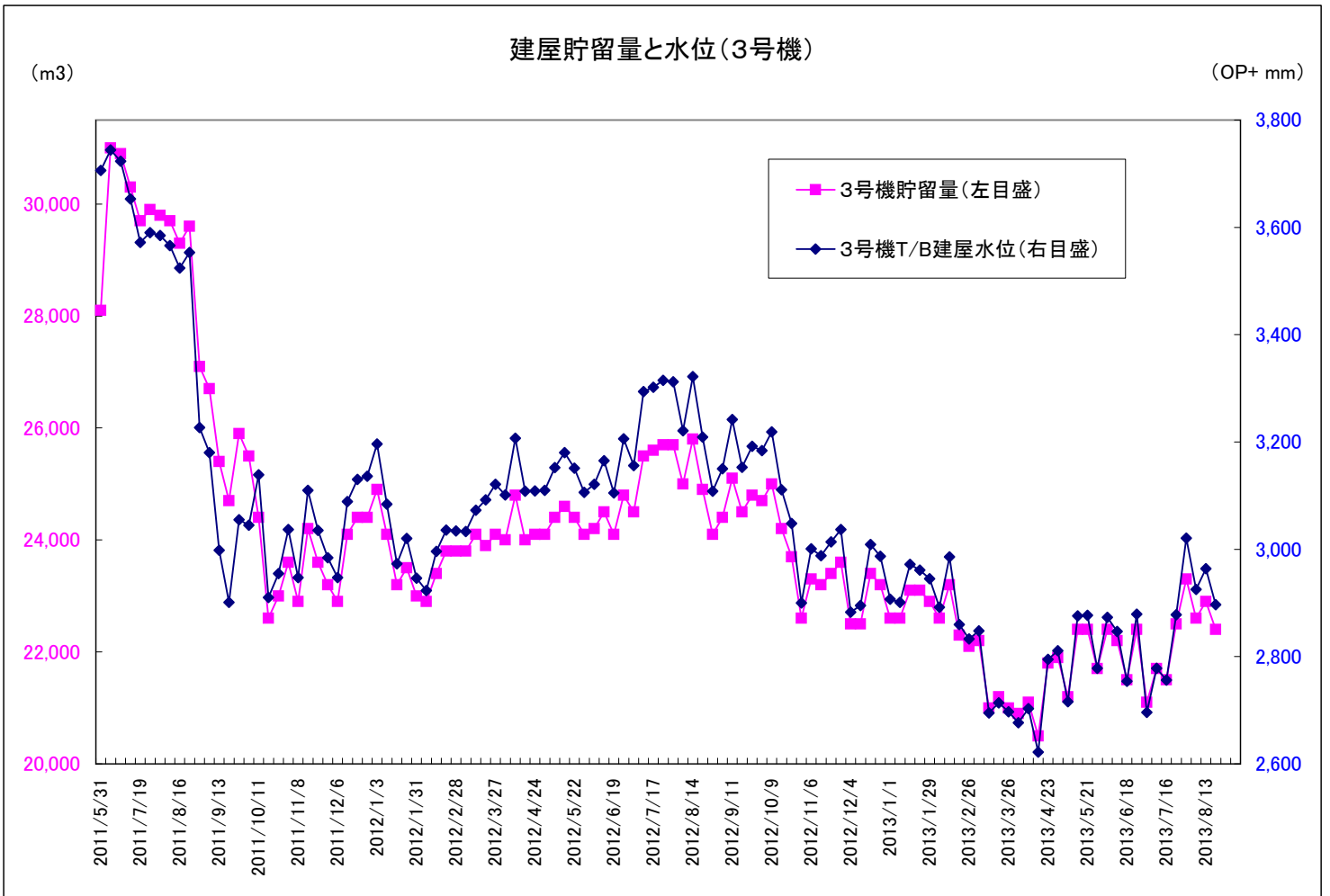


図12

建屋貯留量と水位(4号機)

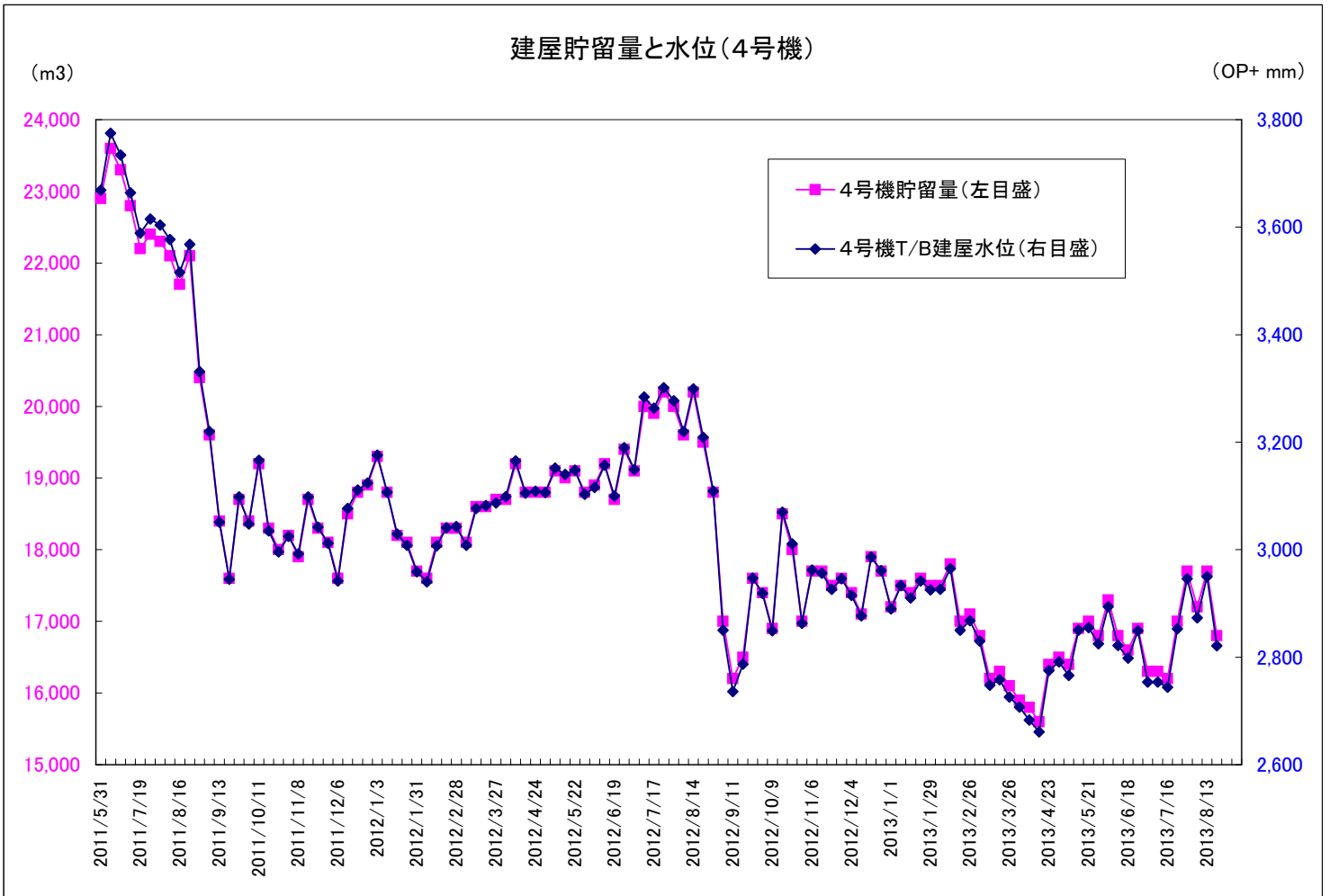


図13

建屋貯留量と水位(プロセス主建屋)

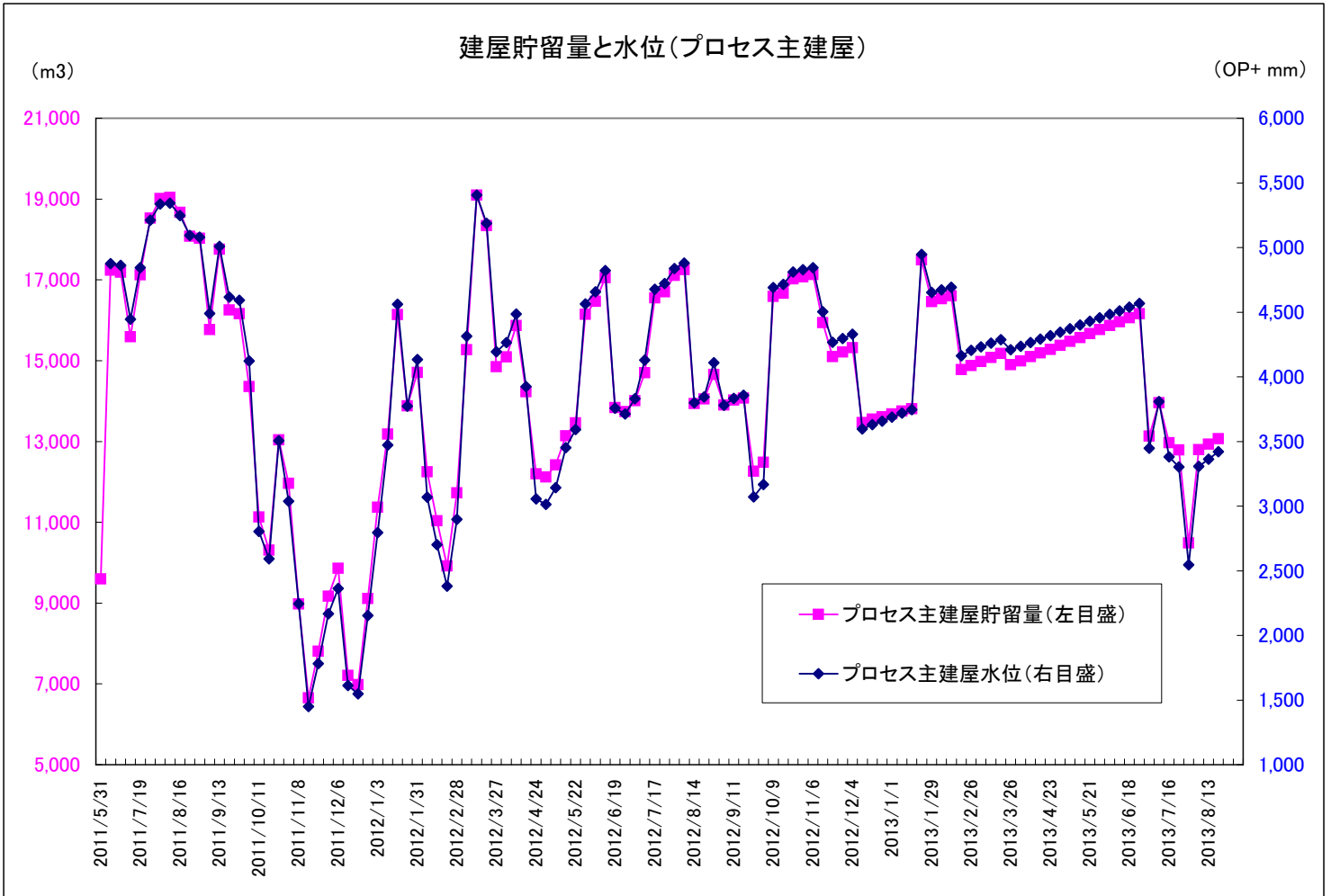


图14

建屋貯留量と水位(高温烧却炉建屋)

